

QMS研究会報告
中国地区品質経営協会

Ⅱ. 方針管理とQMS

- QMSの実施状況
- QMSの特徴と2000年度版
- QMS運用の現状
- 有効活用への提案
- 方針管理と要求事項の融合
- 広島支店に於けるとIT化システムの事例

2003/07/24 清水建設広島支店生産支援センター所長 福原一博

QMSの実施状況

ISOを導入している会社 中国品質経営協会の会員会社

ISO9001 ISO14000

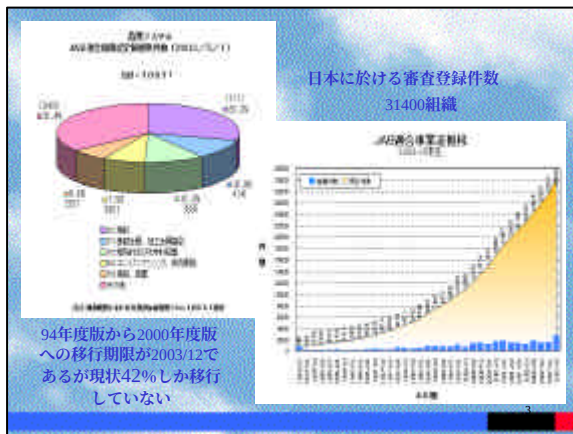
非常に多くの企業がISOを導入し活動をしている

導入の目的

- 自社品質管理システムの基盤構築
- 製品サービスのパフォーマンス向上
- 参入条件の確保・拡大
- 取引先等からの要求

本来導入の目的が達成されているか
達成する為の問題点は何か
運用状況は良好か

QMS研究会にて、今後のあるべきシステムについて各社の事例よりワーキングを実施した



QMSの特徴と2000年度版

ISOの審査登録とは

- システム規格であり製品規格ではない
- 製品改善・効率改善などパフォーマンスは見えていない
- 第三者機関による定期的な審査(サーベランス)が実施される
- 文書化が要求されている
- 権限と責任を明確にしている
- 国際的なモデルとなっている

マニュアル
手順書
管理文書

計画そのものの質とか技術的な内容等は審査していない

ISO9001:2000の特徴

- 顧客志向の強調
 - 顧客満足に直結するような計画の策定
 - 自由裁量の拡大
 - 頭の良い人にとっては都合の良い規格
- 継続的改善の導入
 - 計画の質や高度な技術等は審査対象ではない
 - QMSを運用した結果の改善を要求
 - システムの有効性の評価
- プロセスアプローチの採用
 - 自分のQMSは自分で構築する
 - 組織の実態に合ったQMSの構築
- 文書化要求事項の減少
 - 六つの「文書化された手順の要求」(文書管理、記録の管理、内部監査、不適合製品の管理、是正処置、予防処置)
 - 組織が必要とする文書の特定
- トップマネジメント役割の拡大
- 資源運用管理の充実

QMS運用の現状

品質向上の規格であるISO9004は意図に反して普及していない

QMSが有効に機能したか

- 機能していない：40%
- 維持活動が形式的
- 文書化の要求が多い
- 管理コストの増大
- 製品・サービスの質が向上しない
- 柔軟な対応が出来なくなっている
- クレーム・不具合が減少しない

競争参入に対するパスポートとしての位置付け

QMSが有効

- 文書化により組織の各役割が明確になる
- 品質に対するシステム化ができる
- サーベランスによりシステム維持がしやすい

